TOKYO BAPTIST CHURCH 東京バプテスト教会
Weekend Message
週末メッセージが聞けます http://tokyobaptist.org/sermons/

神さまの知恵 主にあって誇りましょう
コリントの信徒への手紙1 1:26-31

2024年10月5日 & 6日
余沢 武 牧師

I. はじめに

こんにちは。コリント第一では、私たちは神によって区別されたことを学びました。
私たちが罪人であることを認めるとき、私たちの罪に対する罰としてイエスの十字架を受け入れて、許しと変化を求めてください。
神の恵みによって、私たちの考え方と話し方が変わります。
そして、イエスと交わりを深めていきます。　私たちはイエスの生涯に参加します。

これが「十字架のメッセージ」であり「十字架の言葉」、「神の力」、「神の知恵」の意味するところです。「人間の雄弁な知恵」では不可能な変革を成し遂げることができるのです。今日は、この「神の知恵」が私たちの生活の見方を変えるのか見てみましょう。
まず、祈りましょう。

II.主を誇る
(1) 私たちは何者だったのか
コリント第一 1:26 を見ましょう。「きょうだいたち、あなたがたが召されたときのことを考えてみなさい。世の知恵ある者は多くはなく、有力な者や家柄のよい者も多くはいませんでした。」
分裂したコリント教会に対してパウロは、「あなたがたが召されたときのことを考えてみなさい。」と言っています。

「召される」という言葉は、食事やパーティーへの招待を指すのに使われていました。また、神から召命を受けた人を表すのにも使われました。たとえば、人は次のように言うかもしれません。
1「私は教師になるように召命を受けた」これは、教師として奉仕するために人生を捧げるという内なる認識または確信を神から受けていることを意味します。
2 または「私は宣教師になるように召命を受けた」これは、宣教師として奉仕するために人生を捧げるという内なる認識または確信を神から受けていることを意味します。
3 私たちが「クリスチャン」になるように召命を受けたとき、それは私たちが自分の罪を認め、神に助けを懇願し、変えられ、「イエスの生涯」に参加できるようにするという内なる認識または確信を神から受けていることを意味します。
そしてパウロは、私たちがそのような「召命」を受けた理由は…
私たちが「賢い」からではない、と語っています。それは私たちの教育や賢さ故ではありません。 2 私たちが「力がある」からではありません。影響力があるからでもありません。
3 私たちが「高貴な生まれ」だからではありません。家系がよかったからではありません。

(2) 神の意図
27-29 節:「ところが、神は知恵ある者を恥じ入らせるために、世の愚かな者を選び、強い者を恥じ入らせるために、世の弱い者を選ばれました。また、神は世の取るに足りない者や軽んじられている者を選ばれました。すなわち、力ある者を無力な者にするため、無に等しい者を選ばれたのです。それは、誰一人、神の前で誇ることがないようにするためです。」

これは、神は「愚かな者を選び」、「弱い者を選び」、「取るに足りない者、軽蔑されている者を選んだ」。つまり、神は意図的な選択をしたということになります。
なぜでしょうか。「知恵ある者をはずかしめる」、「強い者をはずかしめる」、「(何かを)無に帰す」ためです。

ですから、神は目的をもって「愚かな人々、つまり人間の知恵と教育に欠けている人々」を意図的に選んだのです。キリスト教の歴史を見れば、神が用いた多くの人々が最低限の教育しか受けていないことが分かります。例えば…
イエスの弟子の幾人かは漁師でした。ペテロとヨハネはどちらも漁師でした。
「アメイジング・グレイス」を書いたジョン・ニュートンは、かつては奴隷商人で酒飲みでした。
D.L. ムーディーは偉大な伝道者ですが、靴のセールスマンでした。
「近代宣教の父」ウィリアム・ケアリーも靴職人、または靴修理人でした。

神はまた、「弱い人々、つまり影響力に欠けている人々」を意図的に選んだのです。有名人、有名なアスリート、芸能人、映画スター、政治家がキリスト教徒になれば、本当に神の大義に役立つだろうと私たちはよく考えがちです。しかし、神の考えは違っていました。

神はまた、「取るに足りない、軽蔑されている、血統に欠けている」者たちを意図的に選びました。
つまり、神は人々を家庭環境に基づいて召し出さないということです。実際、多くの牧師や宣教師の子供たちが神に背を向けたことはよく知られています。

数年前に、ある女性が私に、自分はクリスチャンの家庭

で育っていないので、良いクリスチャンにはなれないと言いました。しかし、それはまったく真実ではありません。聖書によれば、神は家庭環境が有利に見えない人々を意図的に召し出すのです。
なぜでしょうか。29 節で彼はこう言っています。「それは、誰一人、神の前で誇ることがないようにするためです。」
なぜなら、神が私たちに知ってほしいのは、自分を成長させ、変革し、イエスの生涯に参加するのはただ「神の知恵」「十字架の言葉」によってであり、自らの罪を認め、神の助けを求める能力は、神が与えてくれるということなのです。

だから、誰もこう言うことはできません…
私の霊的な理解力を見てください。あなたも私を見習うべきです。
私の霊的な成熟さを見てください。あなたも私のようになるべきです。

私たちは誰も、神から与えられた自分の罪の自覚と、神に助けを乞う確信によって霊的成長を受ける以外に、いかなる霊的成長も得ることはできないからです。

先週、私たちは誰かに傷つけられ、赦せないという罪に囚われていたクリスチャンについて話しました。私たちは、彼が赦しのなさという罪と、助けを求める必要性に気づいたときにのみ、イエスとの交わりの中で成長し、イエスの赦しの特質を身につけることができることを学びました。
彼が他の人よりも正義であると考え、自分を他の人の罪の無実の犠牲者として見ている限り、彼の人生は変わらず、イエスの人生を共有し、イエスの赦しを示すことはできません。
しかし、彼が神から与えられる自分の罪の認識と、赦しと助けを懇願するなら、神の恵みによって、彼はキリストの中で成長し、イエスのように赦すことができるでしょう。神の力と知恵を通して、十字架の言葉を通して、このように、神の教会は成長していくのです。

神から与えられた罪の自覚と、神から与えられた助けを懇願する確信を通して得る以外に、霊的成長を経験できる人は誰もいないのです。

他の人よりも何かに長けた奉仕者がいるとしましょう。それは教えること、福音を伝えること、賛美することなどかもしれません。そして彼は、ミニストリーの他の奉仕者のスキルが劣っていることを理由に、その人を見下します。
その奉仕者は、自分が教会の成長にもっと貢献していると思っているかもしれません。しかし、そうではありません。教会とは、私たちが行う活動ではありません。イエスの生涯を分かち合う人々の集まりなのです。

彼が自分の能力のおかげで、自分は神のより優れた僕であり、教会の成長にもっと貢献していると考えている限り、彼の人生は変わらず、教会は成長しません。なぜなら、教会は人々であり、そのような教会の中では人々はキリストにおいて成長しません。
この奉仕者が、神によって自分の罪、つまりプライドの罪に対する認識と、赦しと助けを乞う確信を得たとき、神の恵みによって、キリストにおいて成長し、イエスのように謙虚になります。そして、それを通して教会は成長します。

このように、「私たちは何者なのか」「何をする者なのか」ではなく、大切なことは、
「私の内におられる神は何をするのか」なのです。

(3) 神を誇る
30-31 節:「あなたがたがキリスト・イエスにあるのは、神によるのです。キリストは、私たちにとって神の知恵となり、義と聖と贖いとなられたのです。『誇る者は主を誇れ』と書いてあるとおりになるためです」

それは「神による」とあります。すべては父なる神から与えられた内なる認識と確信から始まりました。
「神からの知恵」であるイエスを通して。イエスの十字架を通して、私たちが自分の罪に気づき、赦しと助けを懇願するとき、私たちは「キリスト・イエスにあって」、変えられ、イエスの生涯を分かち合うのです。

イエスは次のようになられました。
私たちの義… 私たちはイエスの義を共有し、神と正しい関係を持ちます。
私たちの聖化… 私たちは今や神の民として聖別され、区別されています。
私たちの贖い…私たちを罪の奴隷状態から解放してくださいました。

そして今、「神から与えられた認識と確信」によって、私たちは「イエスと交わり」、「イエスの生涯」に参加することができます。だからこそ、私たちはイエスに誇りを持ち、栄光をこの方に帰すのです。

すべては、神の助けによって、「自分の罪に気づき」、「助けを懇願」するようになった
のです。
実際、牧師や教師が他の人に教えることができる唯一の理由さえも、神の助けによって、
私たちが「自分の罪に気づき」、「助けを懇願」したからです。
私たちの教えのゴールは、人が「自分の罪に気づき」「助けを求める」ことです。
他のクリスチャンや他の教会の人もこの教えによって成長できると信じます
そして、私たちはこの教えをもって教会外の人々を助ける伝道を行っています。

ある日、私や皆さんが天国に行き、神の御前に出ます。そのことは、お互いにイエスに生涯に奉仕するにしても、

その奉仕のおかげではなく、神の恵みによってでした。私たちは自分の罪を知り、それを受け入れ、赦しと助けを懇願することができたからです。

そして、私たちがしたことで唯一残るのは、十字架を指し示し、神の恵みによって人々が自分の罪を知り、謙虚に赦しと助けを懇願したことなのです。

パウロは教会に「十字架のメッセージ」こそが、教会のすべてであることを知ってほしかったのです。
教会は「十字架のメッセージ」の上に成り立っています。
私たちは「十字架のメッセージ」を通してのみ救われます。
私たちは「十字架のメッセージ」を通してのみ成長することができます。ただ「十字架のメッセージ」を通して成長して初めて、私たちは「神」に、そして「お互いに」近づくことができるのです。

もしあなたが「十字架のメッセージ」を受け取っていないなら、あなたが罪びとであることを認め、イエスがあなたのために死んだことを受け入れ、神があなたを赦し変えてくださるよう懇願するようお勧めします。そして今日からイエスと共に「新しい人生」を歩み始めるのです。

指定のない限り聖書は協会共同訳を使用しています。
聖書 協会共同訳: ©日本聖書協会
Japan Bible Society, Tokyo 2

キリストのことをもっと知りたい
洗礼を受けたいという方はこちら
メール：cc@tokyobaptist.org
もしくは：https://t-b-c.us/cc

TBC Life 申込み
（毎週届くメールニュース）
http://t-b-c.us/tbclife

SG レッスンの PDF
https://t-b-c.us/sg4124jp

★クラス 301
私の賜物ってなんだろう？
10 月 20 日（日）1:00pm - 5:00pm
参加条件：クラス 201 まで修了し、TBCメンバーの方

★クラス 401
人生の使命を発見する
11 月 3 日（日）1:00pm - 5:00pm
参加条件：クラス 301 まで修了TBCメンバーの方

https://t-b-c.us/classes

オンライン献金
http://t-b-c.us/give

スモールグループ参加申込み
http://t-b-c.us/sgsu

オンライン献金
http://t-b-c.us/give

奉仕者募集中！

1．日本語字幕オペレーター（2 名募集）
月 1～各礼拝の時間の日本語字幕のページを矢印キーで押していく作業。コンピュータースキルはいりません。
スキル：英語を聞いて日本語がどこを話しているかわかる程度の英語力

2．日本語訳字幕作成（1名募集）
月 1～土曜日 16 時に TBC にて作業します。
Mac でプロプレゼンターというソフトで作成しますが、1，2 回のトレーニングで簡単に覚えられます。作成後、土曜日 19 時の礼拝の日本語訳字幕オペレーターもお願いしています。
スキル：英語を聞いて日本語がどこを話しているかわかる程度の英語力

3．週末礼拝メッセージ翻訳（3名募集）
1 か月半に 1 度くらいのペース
自宅での作業になります。
英語のメッセージ原稿を日本語に翻訳します。
スキル：英語と日本語が堪能な方

4．日本語訳レイアウト&印刷（女性1名募集）
月 1～土曜日 16 時に TBC にて作業します。
MS Word を使用してひな形に入れてレイアウトし印刷します。
スキル：MS Word の操作ができる方。
英語のスキルは必要ありません。

*TBC の教会員であることが必須です。

連絡先：hiromik@tokyobaptist.org